

5
展示「源氏物語絵巻」複製版

期 昭和57.9.6 ~ 9.18

於 図書館3F閲覧室(渋谷)

○源氏物語絵巻

あるいは「源氏物語絵詞」ともいう。大和絵一特に作り絵と呼ばれる。引目・鉤鼻・吹抜屋台等の独特の画風で、優美な色彩感のがもし出す各場面の情趣を流麗な仮名交りちらし書の詞によって味ゆうものである。

現存のものは巻十五 蓬生より後の巻々で、それも完全なものは少く、飛びくにならる。

原本は徳川黎明会に三巻、五島美術館に一巻所蔵されている。近年、保存、展観のため、絵と詞を離して、平面に切断された。

複製は田中親美・川面義雄 両氏の手に成り、原本に劣らぬ名品である。

・関屋 絵

剥落がひどくはつきりしないが、この絵巻唯一の風景画で、大和絵の特徴が出ている。

夫と共に任地に下った空蟬が任期満ちて上洛してくる途中、源氏の君の石山詣の一行に逢坂の関で出会う情景である。

左下の方の牛車が空蟬の車で、源氏の一行を留まってお待ちしている感じである。山と樹木に隠れがちにみえる画面中央の黒牛が源氏の車の牛らしい。

・柏木 二 絵

柏木は女三の宮と通じた自責の念から病となってしまう。その病床を親友夕霧が訪れているところ。

画面右上の空間に「タ、ミ」と書いた文字がみえるのは下絵の作者が彩色者に色を指定したものとみられ、絵巻制作過程の一端を示している。

・その他 詞書として「蓬生」、「柏木」の巻から一点ずつ展示しました。

※次回展示は「奈良絵本のいろいろ」(期 9/20 ~ 10/2)を予定しております。